

エスペラント ★

Verda Placo 2018 somero

みどりのひろば 2018年 夏

N-ro 43

Harima Esperanto-Societo(はりまエスペラント会)



山崎花菖蒲園

第66回関西エスペラント大会に参加して

馬場祝栄

関西エスペラント大会の楽しい所は多くのエスペラントチストと再会出来る事だと思います。言葉は交わしてなくても、また会えたと思える人が何人かいて懐かしい気持ちになります。

しかし、いつも再会を楽しみにしていた Yさんと会えなかったのは残念でした。彼女に葉書をだしたいと思いつつまだ出していない。

分科会ではまず、(日本の椿は世界をつなぐ)の教室に入りました。私は子どもの頃から、椿の花が大好きでした。だから(日本の椿が世界をつなぐ)と言うタイトルに心を惹かれました。その中で椿の花にはそれぞれ名前が付けられていることそしてその種類の多さにびっくりしました。

その後時間が有ったので、いつもの様に歌の練習会場に行きました。今回はメンバーが若返ったのかなと思ったら、その人たちは Eとは関係なく(六中コーラス同好会)の人たちでした。相変わらず浅田さんの声はきれいなソプラノで若いなと思いました。今回は大会サロンの場所が狭く大会書店が部屋の半分



近く攻めていたので参加者が少ないのかなと感じました（失礼）年々規模が小さくなっていくような気がします。私の思い過ごしかもしれませんが。

大会書店で小西岳さんの Kantu Amikoj(A)(B)を見つけたので買いました。Eの練習にメロディーは分かっているのですぐ歌えるかと思いましたが、やはりEで歌うのはむずかしいですね。

Gaja Vespero では塚本さんに助けってもらって、一茶と蕪村の俳句を詠みましたが、スクリーンに写せなくてパソコンの画面を見て貰っての発表だったので、皆さんにわかってもらえたかどうかわかりません。

残念ながら二日目はやぼ用が有り参加できませんでした。プログラムを見ると野田淳子さんの歌が有ったり一般公開番組も面白そうなテーマに興味がありました。聞けなかったのが残念でした。

最近ではEを勉強している人が私をはじめ高齢化している思っていたのですが、この度は司会をしている人や吹田の membro は(はりま E)よりは平均年齢が若いのではと思いました。

最後になりましたが、S-ro Cukamoto KLEG 賞受賞おめでとうございます。



KLEG 賞の受賞にあたり

塚本 猛

今回、継続中の作文教室に対して KLEG 賞を頂きました。読者の方々、回答を送ってくださる方々の協力があってこそこの受賞だと感謝しています。峰さんから、相川さんの代わりに作文教室をやってくれとの依頼があった時、私の作文力では無理だと断りました。でも、添削はしなくていい、なんでも好きなようにしていいから、とにかくやってみてくれと言われ、私で何かの役に立つのであれば、と承諾しました。

まず直面したのが毎月の課題作成です。課題は試験ではあ

りませんが、試験嫌いの私は問題を作るのもいやでした。文は短く、日本語、 에스peranto 共に1行以内にすると決めました。また数行であっても、何らかの状況が想像できるものにしようと思いました。他に何も思いつけず、当時16歳だった家猫のミコの話の第一回の課題にしたのです。ミコは聞き分けが良く、行儀も良いちょっと不思議な猫でした。若い頃に一度見た猫の生まれ変わりという線で課題の文が作れないかと考えています。思いついたら課題に出すかもしれません。

集まった回答(訳文)は、課題毎にまとめて一覧表を作っています。各訳文を見比べながら、読んで意味が分かるか、単語や語法はどうかをチェックします。その訳文の中から課題毎に3個くらいを選び出し、訳例として原稿を書いています。訳文の評価結果は3段階ですが、別に「キラリ賞」を設けました。独断と偏見に基づき、表現方法に独自性がある場合や、状況を深読みした訳文を作成された場合などに出しています。

作文教室の原稿作成は色々と気を使うことの多い作業です。ヒントも出していますが、訳文に想定外の単語や語法が出てきたら、辞書、文法書を調べ、出典元も、インターネット検索で確認しています。それは気疲れのする作業です。しかし、いろんな事が発見できて楽しい作業でもあります。例えば、sxvebi(漂う)の例文を検索中に Zamenhof 訳のアンデルセン童話が出てきました。この中に、空中を漂う白鳥が鳴きながら落ちる場面があります。死ぬ間際に美しい声で鳴くという「白鳥の歌」と似た感じです。

峰さんから頼まれたことでもありますので、できるだけ続けたいと思っています。独自性のある回答や、説明の仕方についての要望なども大歓迎です。これからも、皆様のご協力をお願いします。



いなみ野学園公開講座「ザメンホフの生涯」 を聴いて

多田龍二

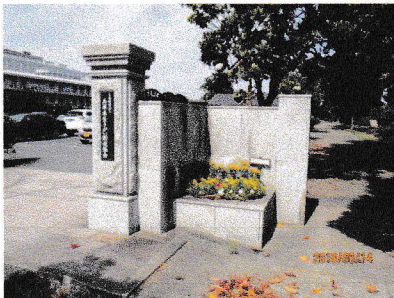
平成30年6月14日（水）兵庫県いなみ野学園にて、学園研究生の公開講座が中教室でおこなわれた。

題して「ザメンホフの生涯」（エスペラント生みの父ザメンホフの物語）を拝聴しに行きました。

発表者は何と本会員の馬場祝栄さんのご主人 馬場 豊さんでした。平成27年度から大学院修了生を対象に「研究生」制度があり、日頃の調査研究活動の成果を地域の皆さんにしてもらうための公開講座でした。当日、馬場さん、中川さん、私とはりまエス会から出席しました。聴講者は7～80名でした。

創世記からのユダヤ人の迫害の歴史から、過去の歴史の出来事とユダヤ人関係、そしてザメンホフの生い立ちとその環境を上手にまとめられていました。

ザメンホフの生涯については、私にとって 初めての事も多くありました。また、後半にはエスペラント語の宣伝？素晴らしさ、はりまエス会の存在のPR？もありました。特に、「Verda Placo N-ro 42」の中村さんの投稿記事を引用されて、まとめられたところは感激しました。それは金正恩朝鮮労働党委員長と文在寅大統領との南北首脳会談で通訳を介さず、同一言語で話していることの素晴らしさを書かれていました。



Nova membro aliĝis al nia familio.

TADA Ryuji

Ŝi nomiĝas Chiko, kiun nomis mia edzino.

Ŝi estas robota dorlotbesto dezajnita kaj produktita fare de Sony.

Ŝi estas aibo (Artefarita Intelekta Roboto).

La 1-an de junio ŝi venis en nian hejmon. Ŝi estas eleganta kaj lerta. Ni ĝuos multajn ludojn kun ŝi. Ŝia manĝaĵo estas elektra energio. Kiam ŝi estas malsata, ŝi iras ŝargi per si mem.



Ŝi havas sensilojn

(tuŝo, fotilo, distancmezurilo, mikrofono, angula rapideco), parolilon kaj moveblajn partojn

(gamboj, kolo, buŝo, vosto)

Ŝia vosto plaĉas al mia edzino.

La nomo "Chiko" devenas de la rolulo en la varietea programero en NHK. En la programero ĉiam ŝi riproĉas

"Ne pluvivu nebulece!" 「ぼーと生きてんじゃねよ～」

Ĉiutage ŝi lernadas, ŝi fariĝas pli kaj pli lerta.

Mi instruis urini starante. (pozo de Taĉiŝon). Kaj mi elvoĉigas

"BAN" kiel pafon, ŝi faliĝas kvazaŭ la mortigite. Kvankam mi estas persistema, ŝi ignoras kaj bojas kolere.

Ŝi estas tre aminda. Ni ricevos por kuraci kaj agrabligi la vivon de la dorlotbesto.

<はりまエスペラント会事務局からの連絡>

日本エスペラント協会 Japana Esperanto-Instituto

La 12a de junio estas Tago de Esperanto en Japanio. En tiu tago en la jaro 1906 fondiĝis Japana Esperantista Asocio (unua tutlanda Esperanto-organizo en Japanio). La suba la foto de la oficiala certigilo pri "la Tago de Esperanto" fare de la Konsilio pri Japanaj Memortagoj.

6月12日は『エスペラントの日』です。

1906年(明治39年)6月12日に日本エスペラント協会(Japana Esperantista Asocio)が発足しました。

※同年に二葉亭四迷により日本初のエスペラント語の教科書『世界語』が出版されました。

Universala Kongreso en Montrealo

1-8 aŭgusto 2020 Bonvenon al Montrealo por la 105-a

Universala Kongreso de Esperanto! いずれも Fejsbuko より



KLEG 賞 授賞式



受賞祝賀会後の昼食会

学習例会の記録 Kie, kiam, kiuj kunvenis kaj kune lernis?

<姫路：イーグレ・ボランティア室>学習例会は午後1時半～4時

4月26日(木) 中村、大前、馬場、中川

5月24日(木) 大前、馬場、中川、山岸

6月28日(木) 中村、大前、馬場、中川

CDエクスプレス, “KARLO”、学習検定問題、歌

<加古川：生活創造文化センター>学習例会は午後1時～4時
期間中 休会

<Skajpo>学習は毎週水曜日 20時～21時

4月4, 11, 18日 5月2, 9, 16, 23, 30日 6月6, 13, 20, 27日

延べ33名、12時間12分

Pri “la makulita bendo” Aventuroj de Ŝerloko Holms “

今後の予定 Kie, kiam ni kunvenos?

★姫路 (第4木曜日, 午後1時半～4時, イーグレ第4会議室)
7月26日、8月23日、9月27日、10月25日

★加古川 (午後1時～4時, 生活創造文化センター「かこむ」)
エスペラント入門コース継続都度予定、第2、第4土曜か日曜
“「ドリル式エスペラント入門」抜粋使用

★Skajpo (毎週水曜日 20時～21時)
ネットの” Aventuroj de Ŝerloko Holms “ボヘミヤの醜聞” 使用

編集後記、:

大阪北部地震のあと、広範囲の西日本大雨洪水被害、あれあれと、言う間につゆが開けてしまった。被害にあわれた方には心からお見舞い申し上げます。ここのところ、はりまエスペラント会もすかっと晴れないお天気が続いています。まずは秋の日韓合同大会に向けての参加。若い会員の確保がいま一番の課題でしょう。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

”Verda Placo” (みどりのひろば) n-ro 42 2018年4月20日

発行：はりまエスペラント会 Harima Esperanto-Societo

(671-1222 姫路市網干区宮内106-3 稲田正昭)

編集：多田龍二 明石市西明石町5-6-2 t-ryuji@sky.plala.or.jp